

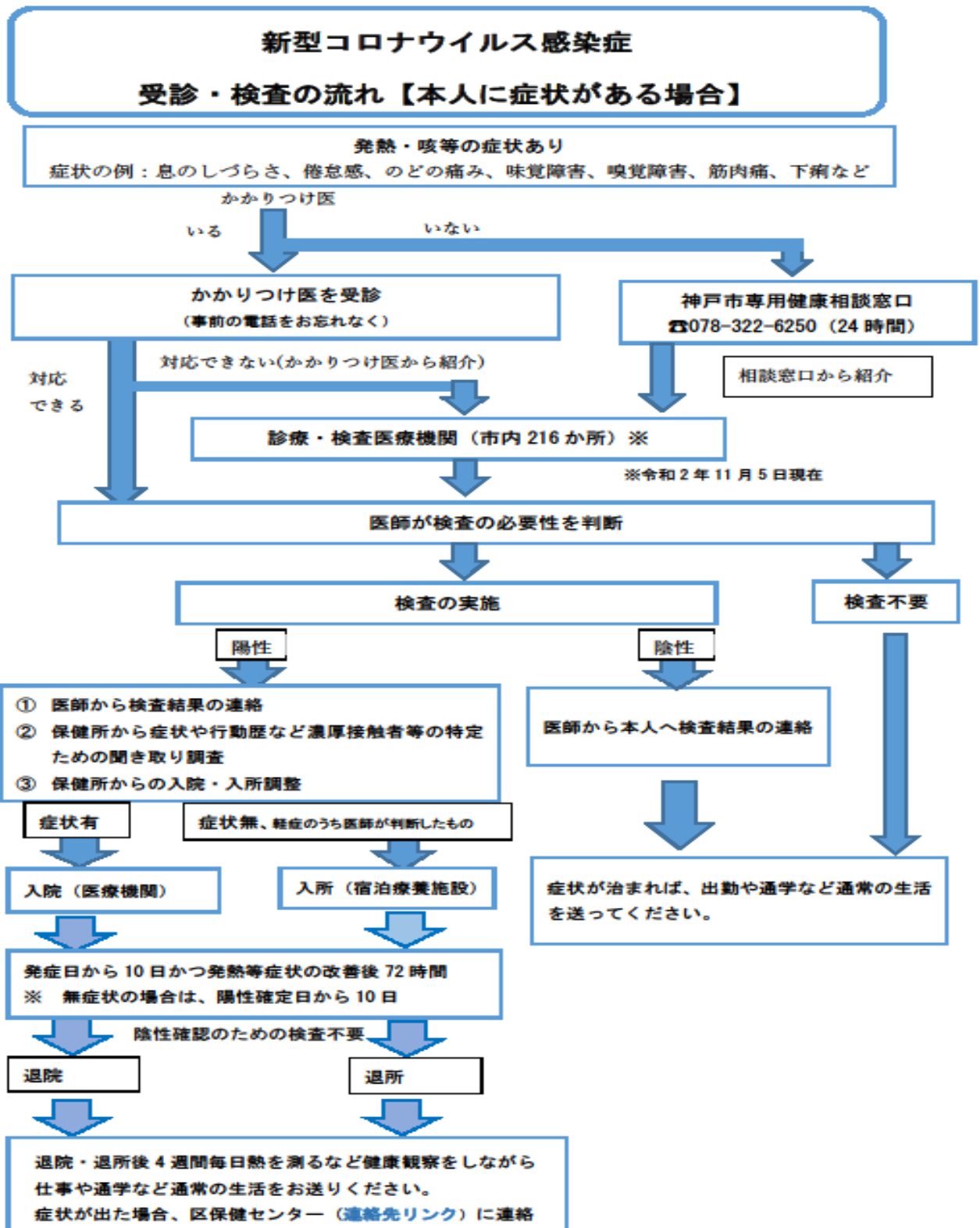


謹賀新年

昨年より続く新型コロナウイルス感染症対策において様々なご尽力を頂いております。今回のSUMAいるタイムズでは、須磨区で活躍されている専門職の方々に執筆して頂きました。記事を通して日々奮闘されております皆様のお力添えになることを願います。

《情報提供》

新型コロナウイルス感染症の検査や受診、入院から退院の流れについて、フローチャートが神戸市ホームページに掲載されています。今一度ご確認ください。



須磨区の特化型認知症ケアセンターのご紹介

今回、北須磨訪問看護・リハビリセンターの平間さんより認知症看護認定看護師の役割と活動について教えて頂きました。(認定看護師とは、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有する者として、看護協会の認定を受けた看護師をいいます)

北須磨訪問看護・リハビリセンター

認知症看護認定看護師 平間真澄(へいまますみ)さん

認知症看護認定看護師とは

認知症の発症から終末期までの各期に応じて、持っている力は何か？できないことの原因は何か？を観察し、本人はどのような気持ちやどうしたいのかを知るために問いかけたり、引き出してご本人の意思を知り、ケアの方法を考えます。また、行動心理症状の緩和や予防を検討して実施するための詳しい知識と技術を持った看護師です。認知症の診断を受けた方に限らず、もしかして？と思っている方への対応もしています。

—日々の活動—

○センター内のスタッフに対して

- ・担当している認知症の方の症状からケア方法についての相談や助言
- ・同行訪問をして認知機能のアセスメントから支援方法を検討

○認知症の方・介護者に対して

- ・その方にあった認知症ケア
- ・日常生活支援
- ・意思決定支援
- ・行動心理症状の緩和、予防
- ・家族(介護者)への相談や助言
- ・多職種連携
- ・地域住民の方と勉強会 など



<事例紹介>

訪問の度に台所に同じ食材が山のように残っている方を担当しています。記憶障害のために購入したことを忘れてしまい調理することができていませんでした。しかし、その方はもともと料理がお好きで得意でした。持っている力をみていくと、包丁も上手に使い料理の作り方もご存じということがわかりました。

そこで、ケアマネジャーやヘルパーさんとも連携をとり、訪問時に声かけをおこなうことで調理のきっかけをつくっています。そのまま一緒に調理をすることもあり、とても楽しそうに料理されています。



認知症の方やその介護者が笑顔で暮らせる地域であるために



認知症ケアでは特に多職種で連携する事が重要になります。認知症の方が安心して医療が受けられ、地域で変わらず暮らせることを目指して、医療・介護・福祉など多職種と連携を密にとっていきたくと考えています。

当センターには、認知症ケア専門士も3名在籍しています。スタッフ一同、日々一緒に認知症ケアについて考えています。お困りのことがあれば、どうぞお気軽にご相談ください。



リレー式コラム

病院地域連携室と多職種連携



北須磨病院

地域医療連携室・医療相談員 志田智子さん

コロナ…なかなか収束しませんね。感染者の増減に一喜一憂する日々も間もなく1年…早いもんです。この時期はインフルエンザも蔓延する時期でもありますから引き続き感染対策をしっかり行い、体調には留意してくださいね。

さて、リレーコラムということで強制的に(笑)バトンを受けましたので地域医療連携室のご紹介をさせていただきます。

地域医療連携室は、外来通院中または入院中の患者さまやご家族からの医療的、社会的、経済的問題へのご相談に応じ、問題解決への助言、解決、調整を行っています。入院においては、安心して療養生活が過ごせるよう、必要に応じ退院調整を行い、地域医療機関や施設、在宅支援者の方々と連携を図り、在宅療養や転院に向け調整し、切れ目のない医療サービスの提供を心掛けています。

また当院は増改築を行い令和2年4月にリニューアルオープンし、地域包括ケア病床を増床することで、リハビリ時間の確保や在宅復帰に向けた準備期間を設けることにより、スムーズに社会生活へ移行できるよう取り組んでいます。

この地域包括ケア病床は、急性期終了後のリハビリだけでなく、ご家族様のレスパイト目的や在宅でのADL低下によるリハビリについてもご相談に応じています。

最近ではよく、居宅のケアマネさんやあんしんすこやかセンターさんからのお問い合わせやご相談も多くなってきました。

独居生活や老々介護の方も多く、支援の手が回らない…公的サービスの準備が…といった切実なお声を聴かせていただく事もあります。

医療がかかわることでの事例で申し上げますと、急に動けなくなっている、病院にはほとんどかかっていない。介護保険の申請もできていないが主治医もいない。現状の状況把握すら困難とのことで要請を受けました。

取り急ぎ、動けていないことでの緊急受診、治療のために入院していただき、同時に今後の生活について関係者での討議を重ねました。

この方はお一人暮らしであり、自宅内はかなり汚染されており環境整備やサービス調整が必要だったため、入院期間内での在宅復帰は困難かと思われましたが各関係者の協力と後押しもあったおかげで、何とか在宅生活に戻ることができました。その際関わっていただいた支援者は、ケアマネ、訪問介護、訪問看護、往診Dr、PT、福祉用具、ご家族…使えるサービスの集大成といわんばかりにフル稼働していただきました。

すべてにおいて、うまくいくことばかりではないですが、一人の力より二人。二人の力より三人。それぞれの立場で歩み寄り知恵を出し合うことで、可能性は大きく広げられるのではないかと考えています。

高齢化に伴って成年後見制度への申し立て支援をさせて頂く機会も増えています。

相談内容もより多岐に渡り複雑化していますが、地域の中で地域だからこそ出来ることを見つけ出し、共に支え支えられる地域づくりを目指していきたいですね。

地域包括ケアシステムの「医療」において少しでも地域の皆様のお力になれるよう日々頑張っております。

なかなか電話が繋がらないといわれることもたくさんありますが、話しだしたら止まらなくなるんです、すみません！でもハードルは高くありませんから、お気軽にご連絡お待ちしております♪



ご紹介します！キラリ☆と輝く街の専門職

訪問看護ステーションかおり 所長 村田美代子さん

訪問看護師を選んだ理由

看護師とは、病院の中で勤務し、患者さんに寄り添い支援することが仕事だと思い、約40年間の病院勤務。定年を迎え、今後どうするか、趣味もなく、看護の仕事以外何ができるか考えた時、何もできない自分がいました。

介護保険の発足時は、地域での介護とは程遠く、無縁なものと思っていました。そんな折、父が脳出血で倒れ、10年間介護をしていましたが、介護と言っても名前ばかりで、施設に預け、仕事の傍ら休みの日に訪問し、食事の介助くらいで介護らしいことは何も出来ていませんでした。施設に行くたびに「家に帰りたい、死ぬときは家で」との父の言葉を聞いていました。母は「家に連れて帰っても一人では見れない」とのことで、「ハイハイ、定年したら家に連れて帰るからね」と言葉だけで、家に連れて帰ることなく病院で亡くなりました。「家に帰りたかったのに、連れて帰れず可哀想なことをした」と後悔しました。

病院から施設ではなく、我が家へ帰りたいのは、父のみではなく誰もが思い・考えることではないでしょうか。

一人で介護するのではなく、介護する側にも手助けがあれば在宅介護ができるのではないかな。施設ではなく、住み慣れた我が家で生活が

できるのではないかな。その思いから病院で得た知識を生かし、地域で看護師として手助けができればと、訪問看護事業所を開設。介護者・利用者様の力になれる、寄り添った看護・介護ができるように頑張っています。

病院の中しか知らない看護師の方は、訪問看護は大変な仕事であり、一人で判断、何かあった時も一人で動かないといけないと思っている方が多いのではないかと思います。確かに、在宅では病院のように物品が揃っている訳でもなく、家にあるものを利用しながら創意工夫で対応していかななくてはならない場面もあります。ですが、病院と地域の事業所との看-看連携で訪問看護の良さや、訪問看護師だからこそ得られる思いなど沢山あることを知って頂き、今後訪問看護を希望する看護師が増えてくれることを望みます。

住み慣れた地域・我が家で最期まで送ることができるよう、訪問看護師として支援していけるよう多職種の方と連携しながら頑張りたいと思います。

多職種の皆様、これからも訪問看護師をよろしくお願いたします。



サポートセンターからのお知らせ

今後の研修予定

テーマ: コロナ禍におけるフレイルについて(仮)

講師: 松井誠一郎先生(瀬川外科 院長)

日時: 令和3年2月18日(木) 18:30~19:30

場所: ZOOM 須磨区医師会館2階ホール予定(新型コロナウイルス感染症の感染状況にて会場のみ変更の可能性があります)

※案内ができましたら各事業所にご案内いたします。

また、神戸市医療介護サポートセンターのホームページでもご案内いたします。ご参照ください。



編集後記

今回は3名の方にコロナ禍の大変お忙しい中、執筆をお願いし引き受けて頂きました。お互いの職種・役割を理解することは多職種連携においては重要となります。SUMAいるタイムズを通して多職種間の連携の一役をにないたいと考えておりますので自薦他薦問わず、執筆いただける方はサポートセンターにまでお気軽にご連絡いただければ幸いです。(久保・田村)

よろしくお願いたします

